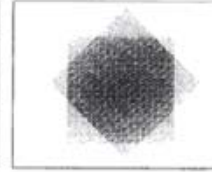


# モノグラフ・高校生'96

vol.47 民主主義—高校生にとって「政治」とは—



静岡大学教授 深谷昌志

## ●目次

要約	2
第1章 はじめに —「デモクラシー」考	4
第2章 高校生のプロフィール	6
1. 自己評価	6
2. 人生の見通し	9
第3章 学校の中の民主主義	14
1. 意見を言うか	14
2. 規則変更への態度	23
3. きまりの決め方	31
4. 生徒会への評価	34
第4章 民主主義とのかかわり	36
1. 民主主義への評価	36
2. 選挙への参加	43
3. 政治への意見	48
4. 政治を変えられるか	52
第5章 まとめに代えて	57
資料1 調査票見本	59
資料2 学年・性別集計表	71



## 民主主義—高校生にとって「政治」とは—

### 要 約

#### ① 将来の進路

本サンプルの場合、難関大学の21.4%を含めて、82.1%が4年制大学への進学を望んでいた。(p. 8 表2)

#### ② 人生への見通し

「一流大学への入学」(17.0%。「きっと」+「たぶん」可能の割合)や「大企業への就職」(17.2%)は困難かもしれないが、「よい親になる」(64.8%)や「幸せな家庭を作る」(70.7%)ことは十分可能だろうと考えている。(p. 9 図1、p. 10 表3)

#### ③ 活動への参加

「生徒会への参加」をよくしているのは17.0%、「クラスの話し合い」に参加しているのは19.8%のように、全体として活動への参加は消極的のように見える。(p. 16 図4、p. 17 表8)

#### ④ 発言するか

「クラスの係や委員を決めるとき」に「ときどき」を含めて意見を言う生徒は23.5%で、全体として、発言しない生徒がかなりの割合を占める。(p. 18 図5、p. 19 表10)

#### ⑤ 役員になりたいか

「勧められても生徒会長には立候補しない」者が96.1%を占める。部活動の部長でも「立候補しない」が85.8%を占める。(p. 20 図6、p. 21 表12)

#### ⑥ 規則変更への態度

「学校から文化祭の内容を変更するように指示されたとき」、「自分から抗議する」のは16.3%で、13.5%は「不賛成だが黙っている」、40.3%は「誰かが抗議すれば同調する」という。全体に、自分から行動を起こすというより、周囲の状況をみる生徒が多い。(p. 23 図7、p. 24 表14)

#### ⑦ 決定の主体

「制服のデザイン変更」に当たって「生徒が決めるべき」が33.0%、これに「先生の助言を参考にして」を含めると61.0%が生徒に任せてほしいと思っている。全体として、生徒に任せてほしいという声が多い。(p. 27 図9、p. 28 表16)

⑧ きまりの決め方

「決まるまで話し合う」ことを支持する生徒も多いが、「ジャンケンやあみだくじ」がよいという生徒も目につく。「文化祭のクラスでの係の分担」を例にすると、話し合い派が39.3%、ジャンケン派が38.0%である。(p. 31 図10、p. 32 表19)

⑨ 生徒会への評価

「生徒会は生徒の意見を反映している」と思っている者は「わりと」を含めて23.8%にとどまる。(p. 34 表21)

⑩ 民主主義への評価

72.2%が「多数意見が正しいとは限らない」と思い、「少数意見は採用されない」と54.9%が思っている。生徒たちは民主主義に懐疑的な評価を示している。(p. 37 図11、p. 38表23)

⑪ 投票行動

国会議員の選挙に「たぶん」の40.4%を含めて、55.1%が投票に行くつもりと答えている。「行かない」といった生徒は27.9%にとどまる。(p. 44 図12、p. 45 表29)

⑫ 政治への意見

「政治に国民の意見が反映されていない」「(とても) + 「わりと」 = 91.0%)、「誰に投票しても政治は変わらない」(80.4%)など高校生たちの政治不信は強い。(p. 48 図13、p. 49 表32)

⑬ 政治への満足感

「まったく」の34.1%を含めて64.5%が政治に「不満足」と答えており、「満足」なのは5.4%にすぎない。(p. 52 図14、p. 53 表35)

⑭ 政治を変えられるか

テレビや音楽、スポーツなどで活躍中の人名をあげ、「そういう人が政治家になったら、政治を変えられるか」と尋ねた結果では、「変わらない」が多く、高校生から信頼されていたのは、ビートたけしだった。(p. 54 図15、p. 55 表36)

[まとめ]

高校生は民主主義のあり方に懐疑的だった。また、政治に対する不信感も強かった。問題を敏感に感じ、政治に信頼感を持っていないのはよい。しかし、自分から積極的に発言することや責任のある立場に立つことなどを避けようとする態度が目についた。批判力はしっかりしているが、行動力に欠けるというのが高校生に対する評価である。

[調査概要]

対象●新潟・東京・埼玉・徳島・鳥取の高校  
1～3年生、1,387名

時期●1996年3月

方法●学校通しによる質問紙調査

サンプル構成 (人)

	男子	女子	計
高1	369	453	822
高2	202	219	421
高3	144	0	144
計	715	672	1,387

## 第1章

# はじめに—— 「デモクラシー」考

筆者は小学6年生の時に終戦を迎えた体験を持つ。それまで、「神国日本の赤子」として、「忠孝一本」の生き方をしなければならぬと、学校の先生に言われ続けてきた。手本は二宮金次郎であったり、楠木正成だったりした。そして、子どもながらに小学校を卒業したら、早く予科練に入り、神風特攻隊の一員として、一身を投げうって国を守ろうと思っていた。実際に、放課後、先生の指導を受けて、何人かの友だちとパイロットになるための器械体操に励んでいた。「滅私奉公」が美德として説かれた時代である。

8月15日を境にして、そうした状況が一変した。空襲に備えて、暗くしていた電灯も明るくなり、ラジオも明るい音楽を流し始めた。そのうち、縁故疎開していた東北の町にもチョコレートとチューインガムを持って、進駐軍が姿を現した。「鬼畜米英」といわれ、悪いことをさんざんするはずのアメリカ軍の兵隊はなんとも人なつこく、暖かい感じだった。

ラジオから「カム、カム、エブリボディー」の英会話が聞こえるようになり、ガムやチョコレート、『リーダーズ・ダイジェスト』（雑誌名）に野球、「ボタンとリボン」（ポピュラー音楽の曲名）などのアメリカ文化と一緒に、「デモクラシー」が町に溢れはじめた。婦人参政権や財閥解体、国家主義者の公職追

放、極東国際軍事裁判なども同じ頃に進んでいる。

食べ物がなく、着る物も貧相だったが、なんとなく、世の中が活気に溢れ、希望の持てる時代だった。その頃、学校で「民主主義」という教科書を手にした。清水崑の挿し絵があって、「主権在民」という言葉が教科書に踊っていた。

とにかく、アメリカと一緒に「デモクラシー」が来た感じで、「デモクラシー」は水戸黄門の印籠のように、すべてを可能にする錦の御旗だった。それだけに、長い間、デモクラシーの国・アメリカのものは、コカコーラやボーリング、ジーンズなど、すべて好きだったような気がする。もちろん、アメリカはデモクラシーの実現した憧れの国であった。

アメリカもさまざまなむずかしい問題を抱えているとわかるようになったのは、ずっと後にアメリカを訪ねてからである。しかし、今でも、「星条旗よ永遠なれ」は好きだし、アメリカを訪ねるときには心が踊る。考えてみると、デモクラシーを物差しにして、10代から現在までを過ごしてきた気持ちがする。

しかし、敗戦から50年たったことを思い起こすと、「デモクラシー」を衝撃を持って迎えた世代は50代の半ばを過ぎた世代になる。そして、古い社会を知らないものの、「デモ

クラシー」の息吹の中で育った団塊の世代も50代になる。

本調査の対象である現代の高校生は1980年前後に生まれた。世代的にみると、団塊の世代かその直後のジュニアたちで、親たちを通して「デモクラシー」が日本の社会に浸透し、アメリカのデモクラシーとはタイプを異にする「日本型デモクラシー」として定着していく過程は見聞きしていよう。

念のため補足するなら、個々人の主張があって、その上に社会が成り立つアメリカ型と比べ、日本型デモクラシーは個々人が集団に帰属し、その集団を話し合いの型で運営していく合議主義的な色彩が強い印象を受ける。したがって、アメリカ型と比べ、全体が穏便に進んでいくものの、個人を主張すると集団から逸脱する可能性が強い。多様な人種を内包する移民国家のアメリカと比べ、日本は同質性の濃い島国の中に地縁共同体的な組織が発達していたから、本家のアメリカと異質のデモクラシーが形成されるのも当然であろう。

改めて、その時代を振り返ってみると、1979年は西城秀樹の「YOUNGMAN」、ツイストの「燃えろいい女」がヒットした年にあたる。テレビでは「3年B組金八先生」が人気を集めていた。離婚問題を扱った「クレイマー・クレイマー」やベトナム戦争の傷跡を描いた「地獄の黙示録」の公開された年でもある。なお、教育界では1979年から国公立大学の共通一次テストが実施されたほか、校内暴力が問題になったのもその頃である。

ここで、これ以上のデモクラシー論を展開

する気持ちはないが、そうした日本型であるにせよ、高校生たちはデモクラシーが新鮮な響きを失い、日本型に変容した後に生まれた世代である。したがって、「デモクラシー」をごくありふれた当然のシステムとして感じる状況の中で育ってきた。そうだとすると、高校生にとって民主主義はあるのが当たり前なのであるから、民主主義は守ったりするものではなく、関心を寄せないか、批判を加える対象なのではないのか。ただ、歴史の教えるところによると、民主主義はあるのが当たり前なのではなく、守る姿勢が失われると、民主主義そのものが失われる可能性が強い。

そうした意味では、高校生が民主主義をどう感じているのかを知りたくなる。なお、調査票の作成にあたり、高校生は未成年で政治に参加していないことを配慮し、民主主義を行動のレベルに戻してつかむためもあって、学校でのきまりに対する態度を重視しようとした。

ところで今回の調査は、さまざまな理由から協力を断られた。実は、「高校生の政治意識」(Vol. 6)の時も協力を得るのに大変苦勞をしたという経験がある。学校では、政治や民主主義は鬼門らしい。しかし、高校生といっても、数年後には選挙権を持つ人々である。したがって、高校生に民主主義についての意識を尋ねることは社会のこれからを考えるとときに必要と考えるのだが、学校は生徒を政治の外においておきたいらしい。ここらにも、日本の民主主義を考える際の素材が転がっているように思えた。

## 第2章

# 高校生のプロフィール

## 1. 自己評価

この号では、高校生の民主主義観を問題にしようとしている。その前に、今回の調査に協力してくれた高校生のプロフィールを紹介しておこう。

表1は高校生の自己評価を示しているが、自分に自信があるのは「心がやさしい」と「体力がある」で、それに対し自信がないのは「流行のファッションをしている」や「異性から人気がある」などである。現代の青年を

特徴づけるのは「やさしさ」だといわれる。このサンプルでも64.0%が「やさしい自分」を自己像の中心にしている。

そうした高校生の進路は表2の通りで、難関大学志望の21.4%を含めて、82.1%が4年制大学への進学を希望している。今回の調査にあたって、標準的な高校の協力が得られず、進学校を中心に調査を行ったので、進学希望率は短大を含めるとほぼ9割に達する。

表1 自分のタイプ—心がやさしい

(%)

	そ う			違 う		
	ととも	まあ	やや	やや	かなり	まったく
流行のファッションをしている	3.0	10.2	28.5	28.2	16.0	14.1
異性から人気がある	3.7	1.7	11.2	30.0	25.4	28.0
先生から信頼されている	4.5	6.0	26.5	32.5	15.5	15.0
勉強ができる	4.9	6.1	18.8	32.2	20.5	17.5
友だちをひっぱる力がある	5.2	7.9	22.0	35.1	16.1	13.7
友だちから信頼されている	6.5	10.8	39.6	26.3	8.1	8.7
行動力がある	7.4	14.1	25.4	30.2	13.3	9.6
運動神経がいい	7.7	11.8	24.6	22.2	14.4	19.3
努力型	9.3	12.9	25.9	23.3	13.1	15.5
友だちが多い	10.4	20.5	34.0	22.0	5.7	7.4
体力がある	11.7	14.9	23.3	20.9	12.5	16.7
心がやさしい	12.5	15.5	36.0	21.2	6.3	8.5

表2 将来の進路——大学は入りたい

(%)

		難関大学	一般大学	短大	専修学校	就職
全体		21.4	60.7	5.9	7.3	4.7
性	男子	28.0	65.7	0.4	4.0	1.9
	女子	14.4	55.7	11.6	10.7	7.6
学年	高1	21.5	61.7	4.6	7.6	4.6
	高2	13.8	60.4	10.3	9.1	6.4
	高3	43.7	43.3	9.0	1.0	3.0
努力型	とても <sup>*1</sup>	33.6	54.0	3.0	5.4	4.0
	やや	19.0	63.2	6.6	7.2	4.0
	あまり	17.2	61.1	8.0	8.0	5.7
ファッション <sup>*2</sup>	とても	23.2	51.4	9.0	11.3	5.1
	やや	22.2	59.3	5.3	9.0	4.2
	あまり	19.4	64.3	6.6	5.0	4.7

\*1 とても＝「とても」＋「まあ」そう、やや＝「ややそう」＋「やや違う」、  
あまり＝「かなり」＋「まったく」違う（以下同）

\*2 ファッション＝流行のファッションをしている（以下同）



## 2. 人生の見通し

そして、図1（表3）に示したように、人生の見通しでは、「一流大学への入学」や「大企業への就職」はむずかしいにしても、「よい親になる」や「幸せな家庭を作る」は十分

に可能だろうと信じている。特に、難関大学への進学希望者はすべての面で将来に明るい見通しを抱いているのが目につく（図2、表4）。

図1 人生への見通し

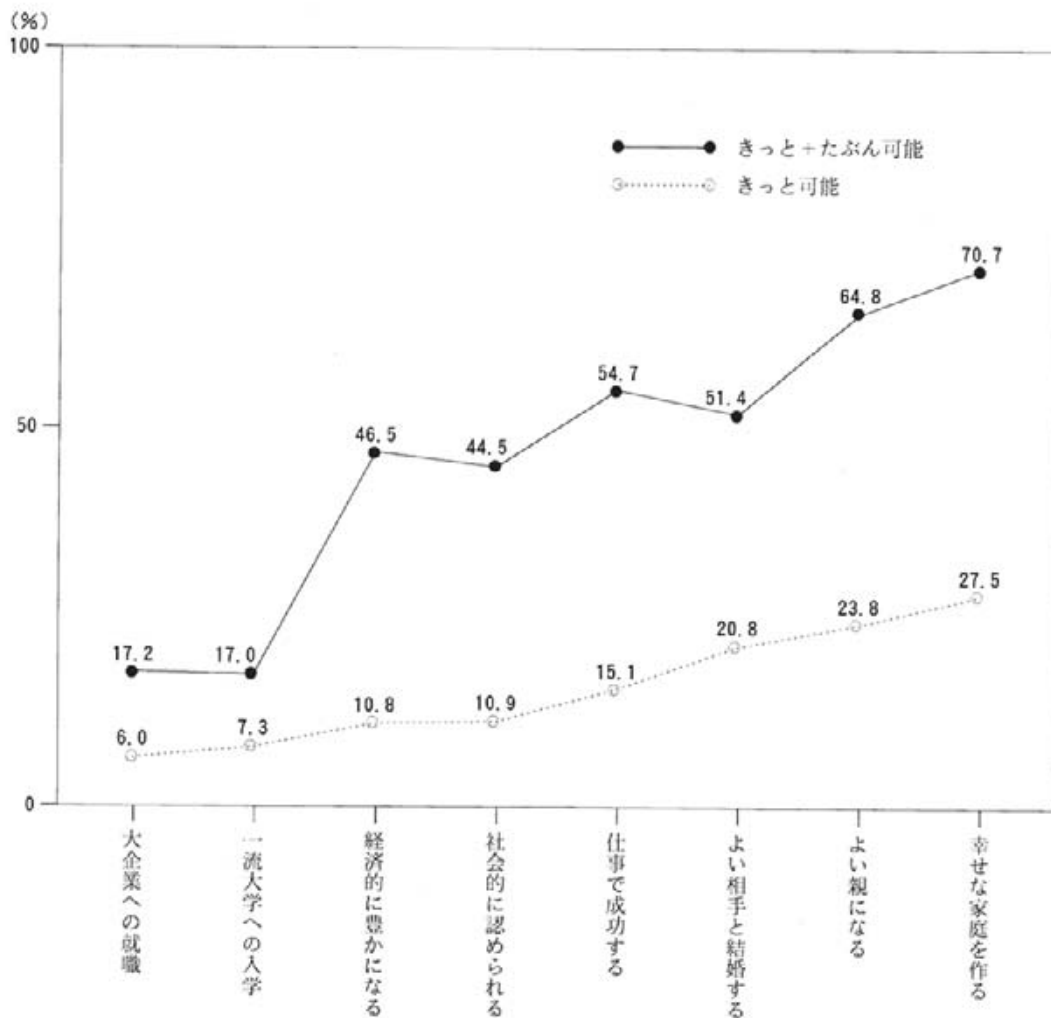


表3 人生への見通し—幸せな家庭はできる

(%)

	可 能			無 理		
	きっと	たぶん	小計	やや	かなり	とても
大企業への就職	6.0	11.2	17.2	26.8	25.7	30.3
一流大学への入学	7.3	9.7	17.0	22.6	24.8	35.6
経済的に豊かになる	10.8	35.7	46.5	36.8	9.1	7.6
社会的に認められる	10.9	33.6	44.5	33.0	11.1	11.4
仕事で成功する	15.1	39.6	54.7	27.5	10.3	7.5
よい相手と結婚する	20.8	30.6	51.4	26.3	10.9	11.4
よい親になる	23.8	41.0	64.8	20.7	6.2	8.3
幸せな家庭を作る	27.5	43.2	70.7	16.8	5.3	7.2

図2 人生への見通し × 進路

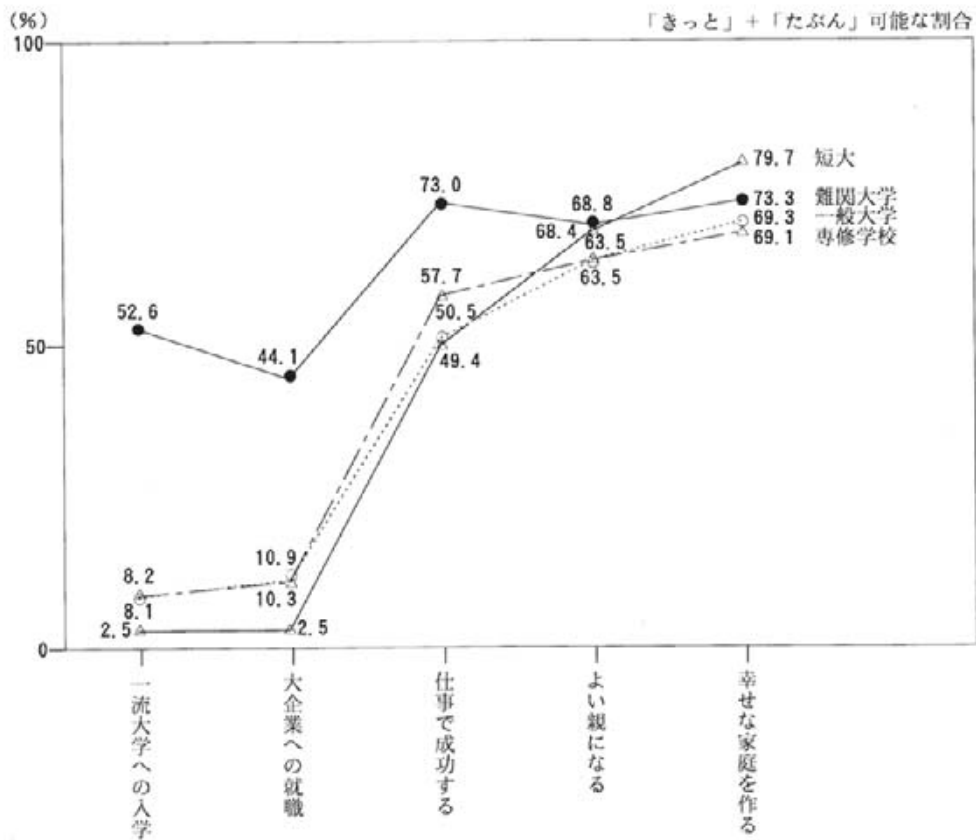


表4 人生への見通し × 属性——難関大学志望者は希望を持って

(%)

		一流大学への 入学	大企業への 就職	仕事で成功	よい親に	幸せな家庭
全 体		17.0	17.2	54.7	64.8	70.7
性	男 子	23.5	24.3	58.3	62.0	66.1
	女 子	10.1	9.5	51.1	67.5	75.7
学 年	高 1	15.9	14.6	53.8	65.9	70.1
	高 2	12.7	14.6	52.7	63.5	72.0
	高 3	36.5	39.7	66.4	62.0	71.5
進 路	難関大学	52.6	44.1	73.0	68.8	73.3
	一般大学	8.1	10.9	50.5	63.5	69.3
	短 大	2.5	2.5	49.4	68.4	79.7
	専修学校	8.2	10.3	57.7	63.5	69.1
努力型	とても	32.1	32.2	70.5	74.1	78.9
	や や	16.0	17.8	60.1	72.8	78.2
	あまり	11.9	11.5	52.5	67.3	70.3

「きっと」+「たぶん」可能な割合

また、図3（表5）によれば、「言われた仕事はこなす」や「同僚とうまくやっていく」などについても「かなり可能だろう」と思っている割合が高い。そうした意味ではビッ

グになるのは困難かもしれないが、ふつうくらいの仕事は十分にできると生徒たちは考えているらしい。なお、仕事への自信と属性別のクロス結果は表6に詳しい。

図3 仕事への自信

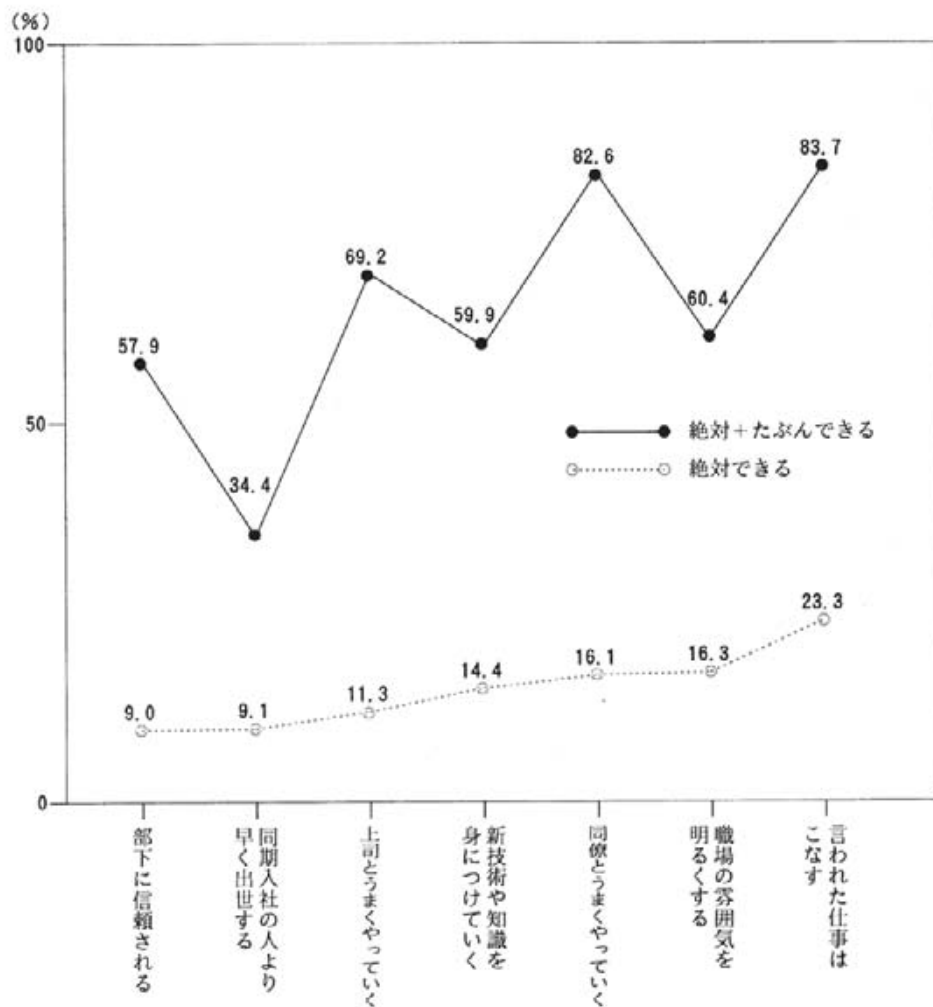


表5 仕事への自信—やっつけける

(%)

	できる			できないかもしれない	できない
	絶対	たぶん	小計		
部下に信頼される	9.0	48.9	57.9	35.8	6.3
同期入社の人より早く出世する	9.1	25.3	34.4	54.0	11.6
上司とうまくやっつけける	11.3	57.9	69.2	24.4	6.4
新技術や知識を身につけていく	14.4	45.5	59.9	34.1	6.0
同僚とうまくやっつけける	16.1	66.5	82.6	14.1	3.3
職場の雰囲気をもくする	16.3	44.1	60.4	32.8	6.8
言われた仕事はこなす	23.3	60.4	83.7	13.2	3.1

表6 仕事への自信 × 属性

(%)

		早く出世する	部下に信頼される	新技術を獲得する	同僚とうまくやっつけける
全体		34.4	57.9	59.9	82.6
性	男子	43.3	62.2	69.4	81.8
	女子	25.1	53.3	50.0	83.4
学年	高1	33.5	56.4	59.2	82.4
	高2	29.3	57.1	56.2	82.7
	高3	55.5	68.8	75.7	83.4
進路	難関大学	55.6	65.9	81.8	80.5
	一般大学	28.3	56.9	54.6	83.7
	短大	29.3	49.3	44.3	83.6
	専修学校	31.6	54.1	53.1	85.8
ファッション	とても	56.4	74.8	74.3	91.6
	やや	42.3	69.8	66.1	91.7
	あまり	29.9	56.0	60.7	84.2

「絶対」+「たぶん」できる割合

## 第3章

# 学校の中の民主主義

## 1. 意見を言うか

民主主義を貫く考え方の基本は、何よりも平等であろう。どの人も対等という見方から話し合いが始まる。しかし、平等になると集団の運営には、どの人も責任を持たねばならないから、個々人の自覚や自主性が大事になる。

そう考えると、民主主義をとらえるために、生徒たちが身の回りの行動に対等という権利意識をどの程度持っているか、あるいは、集団を運営するために自覚性や自主性という感

覚を身につけているかが重要になる。

特に生徒の場合、学校や学級、部活動が主たる生活の場なので、学校での決定にどんな気持ちを持っているのかが、生徒たちの民主主義観をみる手がかりになる。

そこで、学校での決定を生徒たちがどうとらえているのかを確かめてみた。表7に学校での行動を示したが、どの生徒たちも「仲間で決めたことは守る」「板書通りにノートをとる」などをしていると答えている。

表7 学校での行動——まじめにしている

(%)

	まったく その通り	そ う		そうでない	
		わりと	まあ	あまり	ぜんぜん
昼休みは体を動かす	3.2	2.7	3.9	13.4	76.8
先生の指示通りにしない	3.6	12.4	31.4	47.0	5.6
昼休みはウォークマンを聴いて いたい	4.5	5.6	12.5	35.7	41.7
学校のプリントは読む	9.1	25.9	33.4	25.0	6.6
自己流に行動しやすい	11.5	29.3	30.2	27.3	1.7
板書通りにノートをとる	15.9	34.8	30.1	14.3	4.9
仲間で決めたことは守る	16.3	43.4	34.1	5.6	0.6
提出物の期限は守る	21.1	32.4	27.3	14.3	4.9

それでは、さまざまな場面での参加をどうしているのか。図4（表8）によれば、「クラスの話し合い」（19.8%＝「かなり」＋「やや」参加している割合）や「生徒会活動への参加」（17.0%）はほぼ2割にとどまっている。「文化祭などの学校行事への参加」

も39.9%で、全体として、学校のさまざまな面に積極的に参加しているとは言にくいように思える。

なお、属性別にみても、活動に消極的な層が大半で、積極的なタイプは少ないようにみえる（表9）。

図4 活動への参加

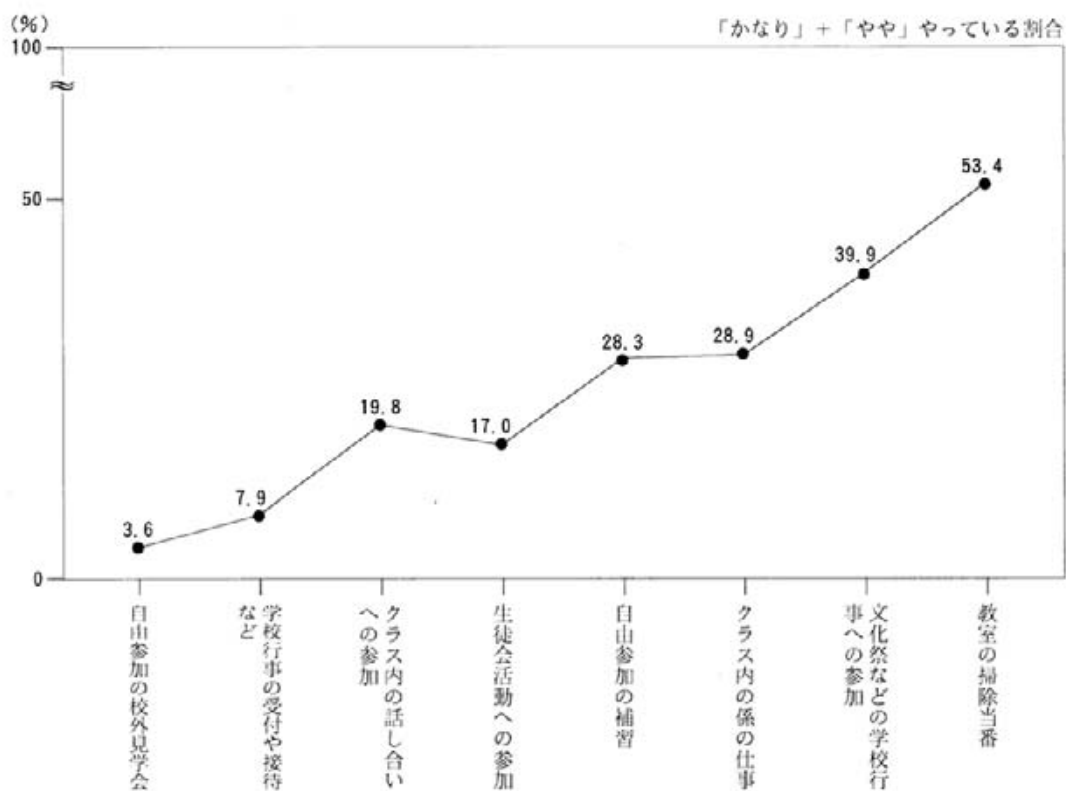




表8 活動への参加—あまり参加しない

(%)

	やっている		ふつう	やらない	
	かなり	やや		あまり	ぜんぜん
自由参加の校外見学会	1.4	2.2	12.0	19.8	64.6
学校行事の受付や接待など	3.2	4.7	20.0	31.1	41.0
クラス内の話し合いへの参加	6.0	13.8	44.1	27.9	8.2
生徒会活動への参加	8.4	8.6	22.1	25.1	35.8
自由参加の補習	11.7	16.6	22.6	20.5	28.6
クラス内の係の仕事	12.6	16.3	46.6	14.4	10.1
文化祭などの学校行事への参加	15.0	24.9	38.4	14.3	7.4
教室の掃除当番	28.1	25.3	31.0	11.9	3.7

表9 活動への参加 × 属性—しているのは掃除

(%)

	性		学 年		
	男子	女子	高1	高2	高3
自由参加の校外見学会	3.5	3.7	2.4	4.3	8.4
学校行事の受付や接待など	6.4	9.4	6.4	10.7	7.7
クラス内の話し合いへの参加	19.5	20.2	18.6	21.2	22.2
生徒会活動への参加	15.9	18.1	15.4	17.4	25.0
自由参加の補習	25.8	30.9	23.8	39.9	19.6
クラス内の係の仕事	30.1	27.5	24.6	30.0	50.0
文化祭などの学校行事への参加	32.8	47.7	37.9	43.9	40.2
教室の掃除当番	50.7	56.3	48.7	59.4	63.2

「かなり」+「やや」やっている割合

それでは、生徒たちはいろいろな場面で自分の意見を言うのであろうか。「体育祭、球技大会の種目の話し合い」のときに発言するのは「ときどき」を含めて41.3%で、「係や委員を決めるとき」でも発言者は23.5%と4分の1にとどまっている（図5、表10）。話

し合いが始まっても、じっとしたまま無関心な生徒が少なくないことを示す結果である。

なお、属性別では、高校3年生になると発言する割合が多いのは、高校に慣れたからであろうか（表11）。

図5 意見を言う割合

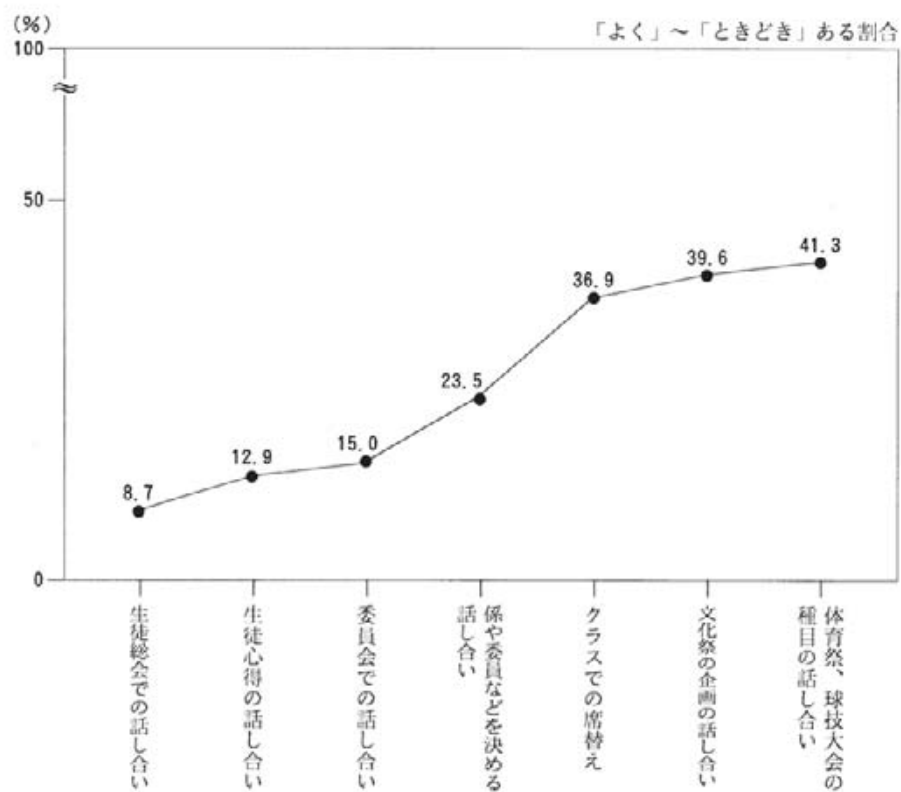


表10 意見を言う——あまり言わない

(%)

	あ る				な い	
	よく	わりと	ときどき	小計	あまり	ぜんぜん
生徒心得の話し合い	1.4	2.1	9.4	12.9	30.4	56.7
生徒総会での話し合い	1.7	0.8	6.2	8.7	21.6	69.7
委員会での話し合い	1.7	2.2	11.1	15.0	28.4	56.6
係や委員などを決める話し合い	2.0	4.1	17.4	23.5	41.2	35.3
文化祭の企画の話し合い	4.4	10.2	25.0	39.6	34.9	25.5
クラスでの席替え	4.8	9.4	22.7	36.9	31.7	31.4
体育祭、球技大会の種目の話し合い	4.8	10.1	26.4	41.3	32.1	26.6

表11 意見を言う × 属性——高3になると発言

(%)

	全体	性		学 年		
		男子	女子	高1	高2	高3
生徒総会での話し合い	8.7	11.3	> 5.9	6.8	10.4	14.7
生徒心得の話し合い	12.9	14.8	> 10.7	11.9	14.2	14.7
委員会での話し合い	15.0	18.6	> 11.2	12.2	17.6	23.2
係や委員などを決める話し合い	23.5	26.7	> 20.2	18.6	29.8	33.6
クラスでの席替え	36.9	38.2	> 35.7	34.5	42.5	34.5
文化祭の企画の話し合い	39.6	39.0	< 40.2	37.3	42.6	44.1
体育祭、球技大会の種目の話し合い	41.3	43.3	> 39.2	41.3	38.1	51.0

「よく」～「ときどき」ある割合  
○は学年間の最大値

積極的に発言をしない生徒たちは役員などに立候補するのだろうか。図6（表12）に示したように、生徒たちはほとんどすべての役職に「勧められても立候補しない」と答えている。生徒会の会長はともあれ、部活動の

部長や生徒会の役員にもなりたくないと思っている者が8割を超える。なお、そうした中で、難関大学進学を望む者は「勧められれば、立候補してもよい」と思う割合が高い（表13）。

図6 勧められれば立候補する割合

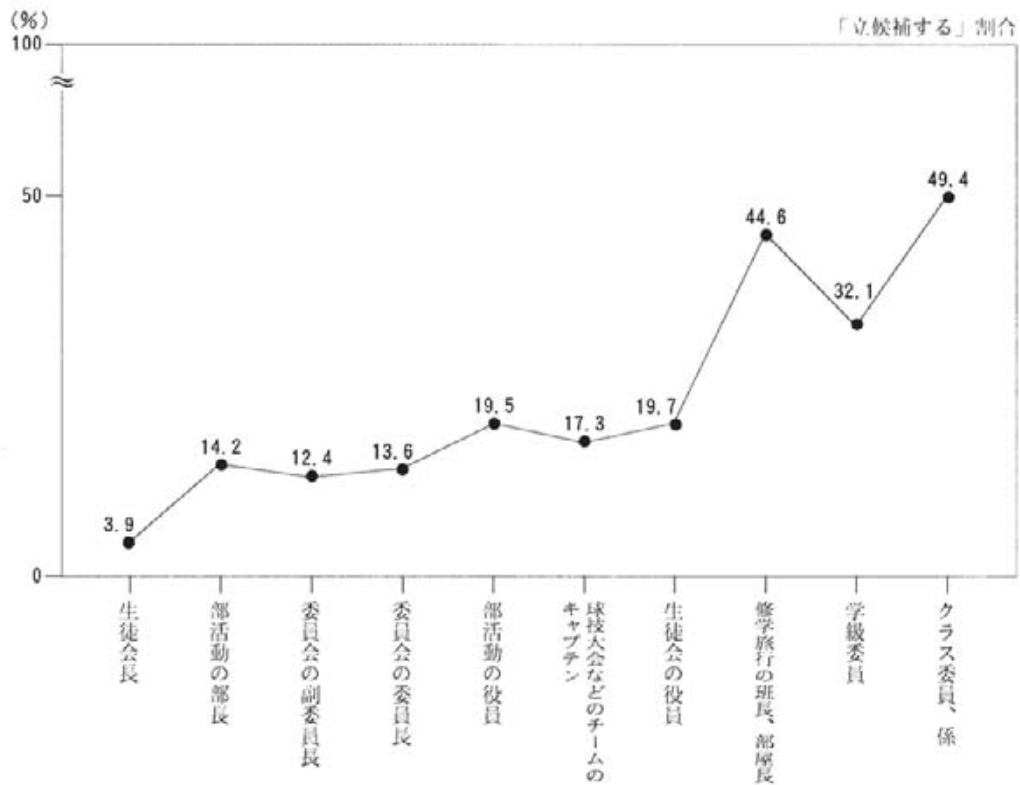


表12 立候補——立候補はしない

(%)

	自分から 立候補	友人に 勧められ 立候補	先生に 勧められ 立候補	小 計	立候補 しない
生徒会長	1.9	1.2	0.8	3.9	96.1
部活動の部長	2.5	7.6	4.1	14.2	85.8
委員会の副委員長	3.9	4.9	3.6	12.4	87.6
委員会の委員長	4.4	4.9	4.3	13.6	86.4
部活動の役員	4.5	10.7	4.3	19.5	80.5
球技大会などのチームのキャプ テン	4.9	9.9	2.5	17.3	82.7
生徒会の役員	6.8	4.5	8.4	19.7	80.3
修学旅行の班長、部屋長	8.0	30.7	5.9	44.6	55.4
学級委員	8.8	12.3	11.0	32.1	67.9
クラス委員、係	25.2	9.3	14.9	49.4	50.6

表13 立候補 × 属性——難関大学志望者は立候補

(%)

		生徒会長	委員会の委員長	部活動の部長	学級委員
全 体		3.9	13.6	14.2	32.1
性	男 子	6.0	15.9	15.2	33.3
	女 子	1.4	11.5	13.1	30.9
学 年	高 1	3.4	12.9	12.1	30.4
	高 2	4.1	10.9	17.4	32.2
	高 3	6.3	25.3	19.6	33.7
進 路	難関大学	6.4	19.6	17.4	38.3
	一般大学	3.2	12.9	13.8	32.2
	短 大	0.0	11.4	16.7	35.4
	専修学校	3.2	7.2	11.3	18.6
やさしい	とても	4.7	16.2	14.8	33.3
	や や	1.7	11.1	12.3	32.4
	あまり	6.0	12.0	10.1	28.8

(勧められれば)「立候補するかもしれない」割合  
 ○は項目間の最大値

## 2. 規則変更への態度

このように、多くの生徒たちは役員に立候補する気はないし、会合などの折、積極的に発言することも少ない。そうであるならば状況が悪化したとき、生徒たちはどういう態度をとるのか。黙って改悪を認めるのか、それとも、そうなったときは何らかの行動を起こすのであろうか。

図7（表14）に示したように、生徒たちは

「ヘアスタイルの規制が強化された」としたら、「自分から抗議する」のは33.4%で、45.5%の者は「誰かが抗議すれば同調する」と答えている。学校から「文化祭の内容を変更するように」指示されたときでも、「自分から抗議する」のは16.3%で、40.3%は「誰かが抗議すれば同調する」、そして、13.5%は「不賛成だが黙っている」という。

図7 規則変更への抗議

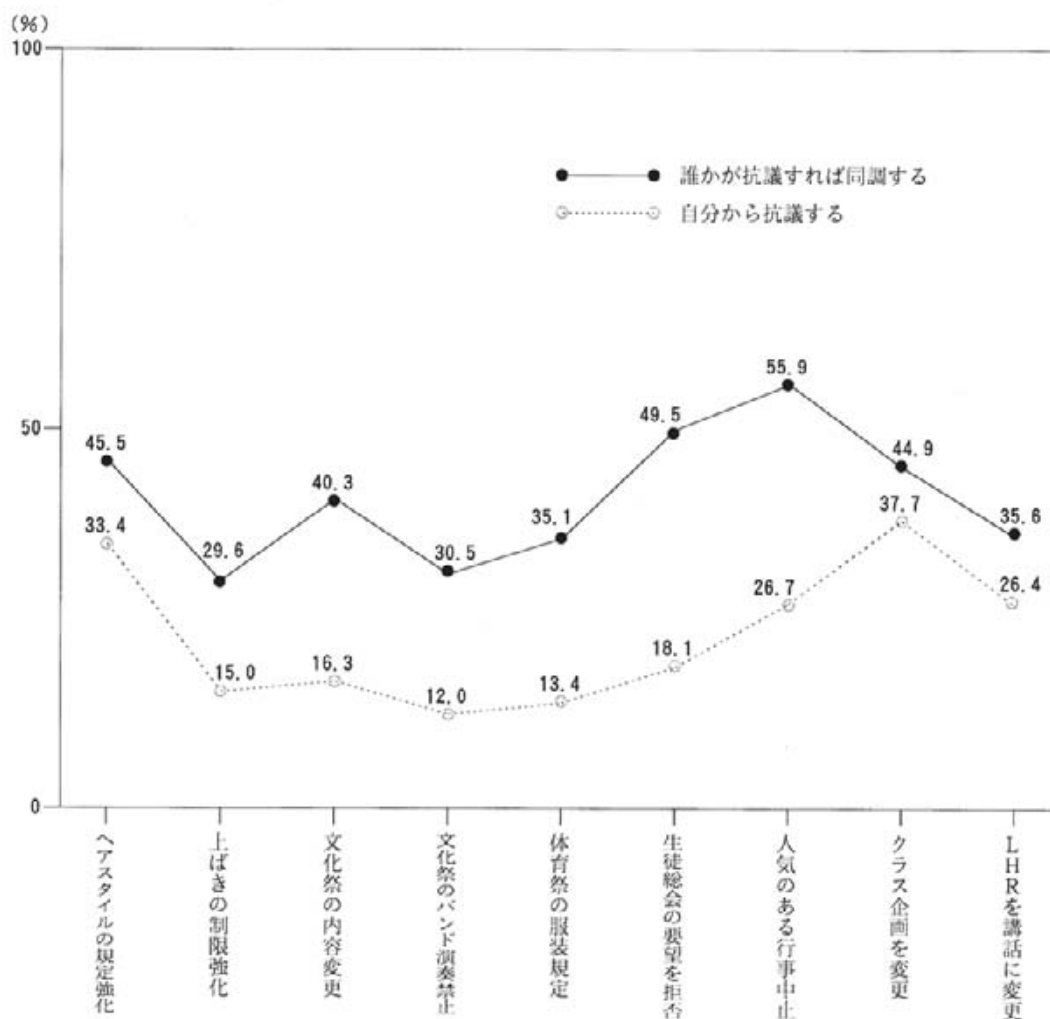


表14の項目により、生徒たちの反応は異なるが、表中の9項目を平均すると、生徒の反応は以下ようになる。

- ①すすんで賛成する 1.6%
  - ②何とも思わない 23.8%
  - ③不賛成だが黙っている 11.7%
  - ④誰かが抗議すれば同調する 40.8%
  - ⑤自分から抗議する 22.1%
- 「賛成」と「何とも思わない」を除くと、74.6%は「不賛成」なのであろう。しかし、「自分から抗議する」のは22.1%なので、不

賛成層の中では29.6%で、残りの70.4%は不賛成なのだが自分からは抗議をしないのだという。

このように、生徒たちは自分からは行動を起こさずに、周囲の状況を見て判断をするらしい。漱石の『坊ちゃん』のように、とにかく行動を起こすだけでは困るのかもしれないが、しかし、状況を見て、しばらくは洞が峠を決め込む態度はどう考えても若々しさに欠ける気がする。

表14 規則変更への態度——誰かに同調はする

	(%)				
	すすんで賛成する	何とも思わない	不賛成だが黙っている	誰かが抗議すれば同調する	自分から抗議する
ヘアスタイルの規定強化	0.9	11.3	8.9	45.5	33.4
土ばきの制限強化	2.3	40.7	12.4	29.6	15.0
文化祭の内容変更	2.3	27.6	13.5	40.3	16.3
文化祭のバンド演奏禁止	3.3	44.3	9.9	30.5	12.0
体育祭の服装規定	1.6	39.5	10.4	35.1	13.4
生徒総会の要望を拒否	1.1	17.4	13.9	49.5	18.1
人気のある行事中止	0.9	8.6	7.9	55.9	26.7
*クラス企画を変更	0.9	9.3	7.2	44.9	37.7
*しHRを講話に変更	1.2	15.9	20.9	35.6	26.4

\*は担任、その他は学校の問題  
○は最大値



なお、表15（図8）によれば、自分を努力型と思っている生徒は「自分から抗議する」割合が多い。

それならば、生徒たちは学校でのいろいろなきまりをどう決めていけばよいと思っているのであろうか。図9（表16）から明らかのように、生徒たちも「修学旅行の行動班」や

「体育祭の選手選出」などは生徒に任せるべきだと思っている。「授業の進め方」は先生の問題だが、その他は「制服の長さ」や「アルバイトをする」なども生徒に任せてほしいが5割に迫っている。そして、表17によれば、女子より男子の方が、自分たちの意見を尊重してほしいという気持ち強い。

表15 規則変更への態度 × 属性——努力型は抗議

(96)

		ヘアスタイルの 規定強化	人気のある行事中止	クラス企画を変更
全 体		33.4	26.7	37.7
性	男 子	34.8	29.4	29.4
	女 子	31.9	23.8	43.9
学 年	高 1	33.5	27.1	38.9
	高 2	33.7	22.7	32.9
	高 3	32.4	36.2	45.1
進 路	難関大学	36.1	24.9	31.7
	一般大学	31.3	15.8	24.4
	短 大	31.6	10.1	22.8
	専修学校	44.3	20.8	40.6
努力型	と とも	40.1	32.6	33.1
	や や	29.4	26.3	27.2
	あ まり	32.4	24.5	25.6

「自分から抗議する」割合  
○は項目間の最大値

図8 規則変更への態度 × 努力型

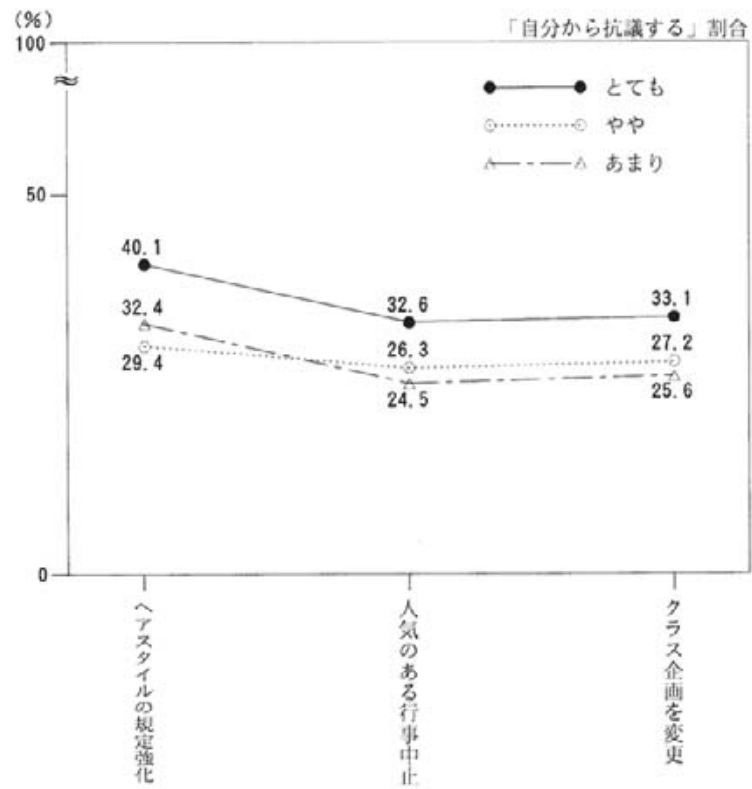


図9 生徒が決める割合

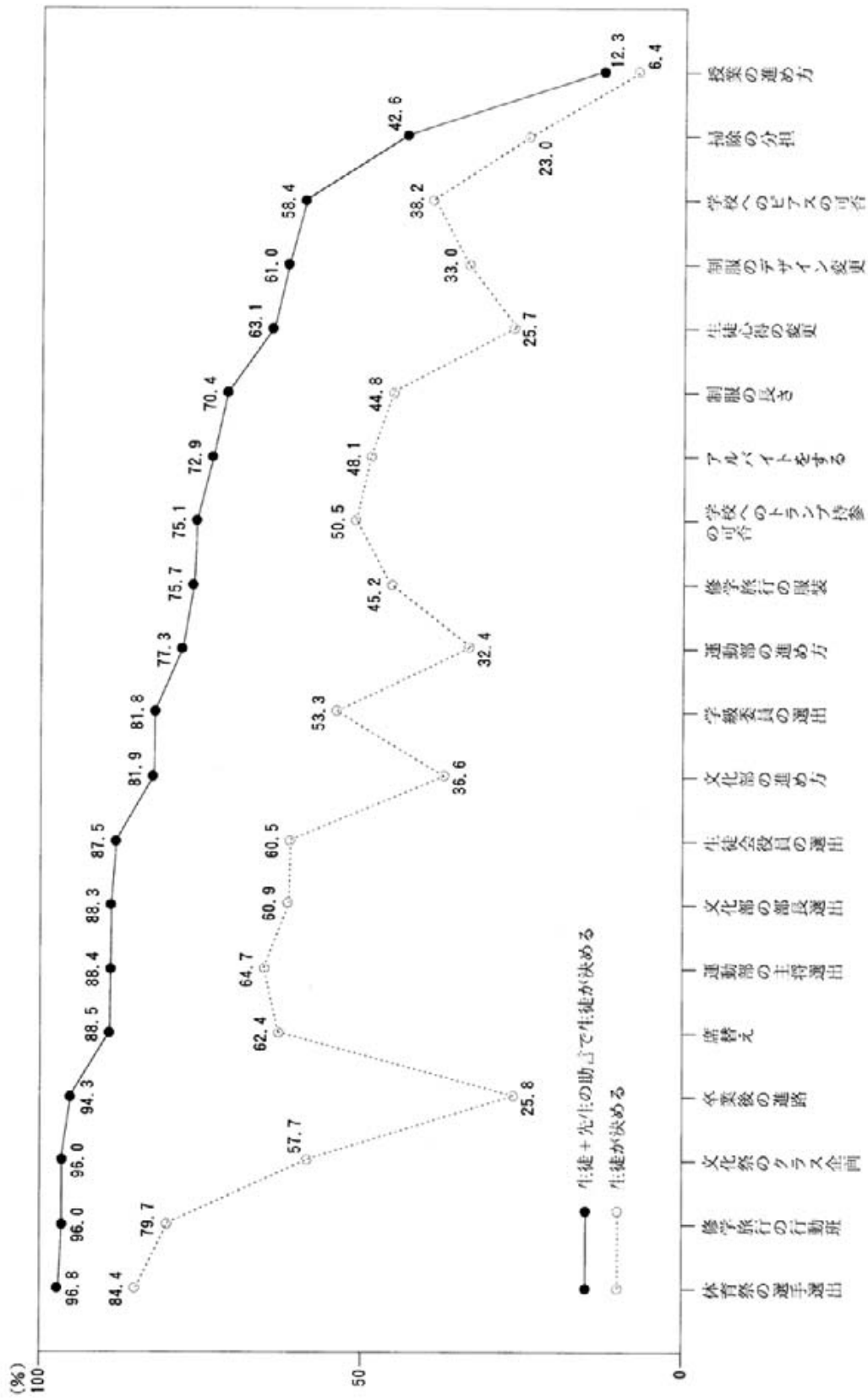


表16 決定の主体——生徒が決めるべきだ

(%)

	先生が決める	生徒の意見も 参考に先生が 決める	小 計	先生の助言を うけて生徒が 決める	生徒が決める
卒業後の進路	0.9	4.8	5.7	68.5	25.8
修学旅行の行動班	1.1	2.9	4.0	16.3	*79.7
体育祭の選手選出	1.2	2.0	3.2	12.4	*84.4
文化祭のクラス企画	1.2	2.8	4.0	38.3	*57.7
席替え	2.5	9.0	11.5	26.1	*62.4
運動部の主将選出	2.8	8.8	11.6	23.7	*64.7
文化部の部長選出	3.6	8.1	11.7	27.4	*60.9
文化部の進め方	4.1	14.0	18.1	45.3	36.6
運動部の進め方	4.4	18.3	22.7	44.9	32.4
アルバイトをする	4.4	22.7	27.1	24.8	48.1
生徒会役員の選出	4.8	7.7	12.5	27.0	*60.5
学校へのトランプ持参の可否	4.8	20.1	24.9	24.6	*50.5
生徒心得の変更	5.1	31.8	36.9	37.4	25.7
修学旅行の服装	6.4	17.9	24.3	30.5	45.2
制服のデザイン変更	6.4	32.6	39.0	28.0	33.0
制服の長さ	6.9	22.7	29.6	25.6	44.8
学級委員の選出	7.7	10.5	18.2	28.5	*53.3
学校へのピアスの可否	16.0	25.6	41.6	20.2	38.2
授業の進め方	30.6	57.1	87.7	5.9	6.4
掃除の分担	35.1	22.3	57.4	19.6	23.0

\*は「生徒が決める」が5割を超えた項目

表17 決定の主体 × 属性——男子は自分たちで

(%)

	全体	性		学 年		
		男子	女子	高1	高2	高3
授業の進め方	6.4	9.3	> 3.4	6.6	5.9	7.0
掃除の分担	23.0	26.6	> 19.2	24.6	21.4	18.9
生徒心得の変更	25.7	29.6	> 21.8	26.0	21.7	36.0
卒業後の進路	25.8	32.2	> 18.9	24.6	22.0	43.4
運動部の進め方	32.4	37.0	> 27.6	29.1	37.7	35.9
制服のデザイン変更	33.0	32.1	< 33.9	33.2	34.3	27.7
文化部の進め方	36.6	41.2	> 31.9	34.1	39.3	43.4
学校への偏スの可否	38.2	37.5	< 38.8	39.1	37.2	35.6
制服の長さ	44.8	44.2	< 45.6	44.6	45.6	44.3
修学旅行の服装	45.2	48.3	> 41.8	44.4	43.0	55.9
アルバイトをする	48.1	50.8	> 45.2	48.5	47.9	46.1
学校へのトランプ持参の可否	50.5	53.7	> 47.0	51.6	47.1	53.8
学級委員の選出	53.3	57.8	> 48.5	48.1	54.6	79.0
文化祭のクラス企画	57.7	62.0	> 54.0	52.9	61.0	72.5
生徒会役員の選出	60.5	66.2	> 54.5	57.9	58.6	80.4
文化部の部長選出	60.9	62.2	> 59.8	57.1	66.8	66.0
席替え	62.4	65.7	> 59.1	58.7	70.8	59.8
運動部の主将選出	64.7	67.2	> 62.0	61.8	70.7	64.1
修学旅行の行動班	79.7	80.7	> 78.8	75.4	84.2	91.6
体育祭の選手選出	84.4	85.9	> 83.0	83.0	84.9	91.6

「生徒が決める」割合  
○は学年間の最大値

さらに、表18によれば、「勉強が得意」や「やさしい」「流行を追う」などの自己評価との関連で、「とてもそう」と自己評価の高い群の方が「生徒だけで話し合って決めるべきだ」と思っている割合が高い。

「生徒の意見を尊重すべきだ」というのは

よい。しかし、これまでのデータによれば、生徒たちは生徒会などの役員になりたくないし、話し合いの席で自分から積極的に発言する気持ちがないと答えている。それだけに、どうしたら「生徒の意見を尊重」できるのかがむずかしい気持ちがある。

表18 生徒の話し合い × 自己評価——属性による開き

		(%)			
		違 う		そ う	
		まったく	やや	まあ	とても
掃除の分担	努力型	25.5	21.3	19.9	25.2
	勉強が得意	24.3	20.6	20.4	30.2
	やさしい	26.6	22.6	19.6	26.1
	流行を追う	22.5	20.6	24.1	27.8
制服の変更	努力型	35.8	32.7	31.0	32.2
	勉強が得意	35.4	28.2	31.8	41.2
	やさしい	38.2	30.3	28.3	38.4
	流行を追う	27.2	27.0	37.5	50.0
生徒会役員	努力型	61.1	58.9	57.3	64.8
	勉強が得意	58.8	57.1	61.2	73.8
	やさしい	55.8	61.0	59.0	64.6
	流行を追う	60.8	59.3	59.7	63.3

「生徒が決める」割合  
○は項目間の最大値

### 3. きまりの決め方

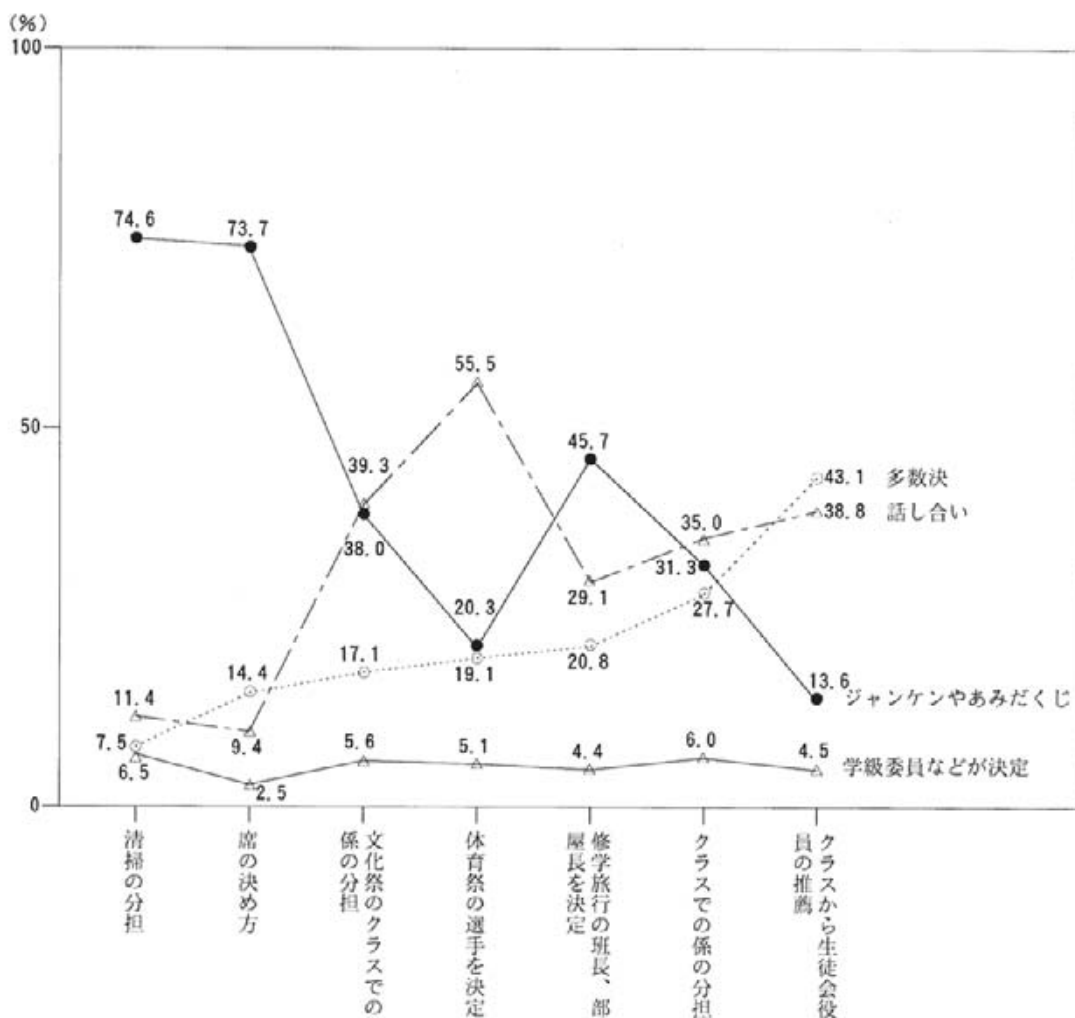
話し合っても結論がでないことはよくある。そうしたとき、解決の仕方としては、①リーダーが決める、②最後まで話し合う、③ジャンケンやあみだくじなどで決める、④多数決の4通りが考えられよう。

もちろん、民主主義とは①のような上意下達を否定して、②のように最後まで話し合う。そして、結論がでなかったら、③や④の形で結論を引き出す仕組みであろう。その中でも

理想をいえば、話し合い決着が望ましかろう。

図10(表19)から明らかなように、問題によって解決の仕方が異なるが、ジャンケンやあみだくじが予想外の人気を集めている。リーダーに決められるのも嫌だが、話し合いは時間がかかる。それなら、後腐れがないように、ジャンケンの結果に従おうというのであろうか。

図10 きまりの決め方



表中の7項目について、きまりの決め方の平均値を算出すると、以下ようになる。

- (代表例) (構成比)
- ①多数決 (生徒会役員の選出) 21.4%
  - ②ジャンケン (清掃の分担) 42.5%
  - ③話し合い (体育祭の選手決定) 31.2%

④学級委員が決定 (清掃の分担) 4.9%  
 かなりの生徒が話し合いも大事だが、ジャンケンやあみだくじもよいと考えているのがわかる。なお、属性別のクロス集計の結果は表20の通りである。

表19 きまりの決め方—時にはジャンケンも

(%)

	多数決	ジャンケンや あみだくじ	決まるまで 話し合う	学級委員 などが決定
清掃の分担	7.5	74.6	11.4	6.5
席の決め方	14.4	73.7	9.4	2.5
文化祭のクラスでの係の分担	17.1	38.0	39.3	5.6
体育祭の選手を決定	19.1	20.3	55.5	5.1
修学旅行の班長、部屋長を決定	20.8	45.7	29.1	4.4
クラスでの係の分担	27.7	31.3	35.0	6.0
クラスから生徒会役員の推薦	43.1	13.6	38.8	4.5

○は最大値



表20 きまりの決め方 × 属性——テーマにより

(%)

		席の決め方	文化祭での係	クラスから 役員推薦
(回答の最大値)		あみだくじで	話し合いで	多数決で
全 体		73.7	39.3	43.1
性	男 子	75.6	38.5	35.5
	女 子	71.8	40.3	51.0
学年	高 1	72.5	37.8	48.5
	高 2	77.3	40.8	37.5
	高 3	71.9	43.7	27.7
進路	難関大学	75.3	43.2	38.6
	一般大学	75.6	37.9	44.9
	短 大	70.9	43.0	43.0
	専修学校	64.9	40.2	43.3
努力型	とても	70.2	39.1	44.6
	や や	73.4	40.6	43.7
	あまり	75.2	39.9	41.1

○は項目間の最大値

## 4. 生徒会への評価

生徒会への評価を表21に示した。「生徒の意見を反映している」と思う者は「わりと」を含めて23.8%、「生徒たちが積極的に参加している」と思うのも13.5%のように、全体として生徒会が低調なのをうかがわせるデータである。「生徒会は学校生活に役立つ」と

思っているのも22.3%で、「あまり」を含めて、41.1%と半数近くの者が生徒会は「役立っていない」と思っている。

そして、表22の属性別のクロス結果でも、「生徒会は生徒の意見を反映している」と積極的に思っている層は以下のような開きにと

表21 生徒会活動への評価——関心は薄い

		そ う			ど ち ら と も い え な い	あ ま り そ う で は な い	ぜ ん ぜ ん 違 う
		と とも	わ り と	小 計			
実 態	活発に活動している	4.4	22.1	26.5	39.8	18.2	15.5
	生徒の意見を反映している	3.2	20.6	23.8	40.9	19.9	15.4
	生徒の主張を通す	3.5	17.6	21.1	41.6	20.5	16.8
	顧問の言う通りに動く	5.6	24.1	29.7	55.4	7.9	7.0
	学校の言うままに運営している	7.5	33.1	40.6	44.6	8.8	6.0
	生徒総会で要求が出る	8.1	23.6	31.7	44.0	11.8	12.5
	生徒が積極的に参加している	2.8	10.7	13.5	40.6	25.3	20.6
関 心	役員の仕事を知ら	2.4	4.0	6.4	13.6	38.2	41.8
	会費の額を知	1.0	0.7	1.7	6.4	13.4	78.5
	役員と話す	1.7	1.7	3.4	6.5	11.9	78.2
	生徒会室によく行く	2.1	1.0	3.1	4.5	6.7	85.7
意 見	学校生活に役立つ	3.0	19.3	22.3	36.6	20.5	20.6
	部活動に役立つ	1.7	10.3	12.0	40.9	25.5	21.6
	みんなで協力するもの	21.4	38.9	60.3	25.5	6.2	8.0
	興味のある人がやる	22.3	30.8	53.1	27.7	10.1	9.1

○は最大値

どまっている。

	〔評価が高い〕	〔評価が低い〕
学年	高3 = 37.6%	高2 = 15.1%
進路	難関大学志望 = 28.8%	短大志望 = 11.4%
自己評価	自分を努力型 と思う = 26.7%	努力型でない = 20.6%

生徒会が低調な傾向はこの20年来続いている。そうした傾向に慣れてしまっているがアメリカの高校などで陽気で熱気のある生徒会会長選挙を見ると、日本の状況はやはり問題をはらむという気持ちがしてくる。

表22 生徒会は生徒の意見を反映している——あまり反映されていない

(%)

		そ う			どちらとも いえない	あまり そうでは ない	ぜんぜん 違う
		とても	わりと	小計			
全 体		3.2	20.6	23.8	40.9	19.9	15.4
性	男 子	4.4	20.3	24.7	38.3	17.8	19.2
	女 子	1.9	20.9	22.8	43.8	22.1	11.3
学年	高 1	2.6	23.3	25.9	40.6	20.1	13.4
	高 2	2.2	12.9	15.1	46.4	20.3	18.2
	高 3	9.9	27.7	37.6	27.0	17.0	18.4
進路	難関大学	3.8	25.0	28.8	33.7	20.8	16.7
	一般大学	3.1	20.9	24.0	43.3	18.2	14.5
	短 大	2.5	8.9	11.4	39.2	36.7	12.7
	専修学校	4.1	16.3	20.4	47.0	16.3	16.3
努力型	とても	5.0	21.7	26.7	41.0	16.0	16.3
	や や	3.4	18.6	22.0	44.2	24.1	9.7
	あまり	2.3	18.3	20.6	37.9	18.8	22.7